

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホームあらた(ユニット1階)		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成24年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年9月4日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901761&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を企画したり、ホームの庭に季節の花や野菜の苗を植えて成長や収穫の喜びを感じるなど、できる限り外の空気に触れ、季節感を感じて頂ける支援を意識している。また自分達で出来る事は職員の見守りを受けながら一緒に行う等入居者一人ひとりのQOL・ADLを維持・向上できるように支援に努め、何気ない日常の行動が本人の自信へつながり、生活する上で充実・達成・満足を感じて頂けるような支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<戸外に出かける機会を多くする支援>
一人ひとりのその日の希望にそって、ショッピングセンターでの買い物やドライブ、紅葉や男山酒造見学、回転寿しやショッピングモールでの外食等戸外に多く出掛けられよう支援している。また、七夕祭りへの参加で地元の人々との交流や近隣幼稚園児の学芸発表の訪問等で子どもたちとの交流にも取り組んでいる。

<職員の内部研修の充実>
職員一人ひとりが働きながら学ぶ機会を得られるように、外部講師を招聘して薬剤師による「介護施設職員のためのお薬の使い方と副作用のポイント」や歯科衛生士による「口腔ケア」の内部研修を年間計画を立てて実施していると共に職員の段階に応じて働きながらトレーニングしていく機会を設け、ケアサービスの質の向上に活かしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は申し送り後に職員で復唱。玄関・フロア・掲示板に掲示し常に意識し介護業務に従事している。	事業所独自の理念を作りあげ、カンファレンスやミーティング時を通じて、職員間で理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩などで地域の方々と挨拶交流を図り、また行事や消火訓練なども声掛けで参加して頂く、気軽に遊びに来てくれたり冬場など雪かきなども手伝ってくれている。	近隣の方が訪問し易いように清掃活動や地域活動をしたり、火災避難訓練には地域の住民の参加を呼び掛けるなど地域の人達との日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会の方々に参加して頂く事で事業所での取り組みなど知ってもらう。地域・町内での介護に関する相談も受けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議実施で都度意見収集に努めている。	年6回の開催を目安に地域住民や家族、関係機関の人々の参加を得て、運営推進会議を開催し、運営に関する報告や利用状況等具体的な内容を話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問事項を通じて指導や助言を受けている。訪問時はサービスの実施状況を伝えアドバイスを頂いたりしている。	市主催の研修参加や日常業務を通じて情報交換を行い、事業所の取り組みを伝えながら、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの身心の状態を把握し状況に合わせて見守りや支援提供に努めている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関し職員全員が周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士より権利譲渡に関する指導を受け状況に応じたアドバイスを受けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族様と事前面談を行い運営説明や入居に関する一切を事前に説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の掲示や玄関に意見箱を設置したり、面会時は気軽に話ができるよう常日頃から交流を図っている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置されている。また、家族会が設置され、日頃から家族との連携を深めていると共に毎月日常生活の近況報告や行事参加の様子を報告している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聞く機会がある。また月一度の介護ミーティングなども意見交換の場として活用している。	毎月のミーティング、カンファレンスで職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けて、運営に反映できるように取り組んでいる。	普段のケアサービスの実際を(例えば献立メニュー、日々のケア記録、勤務毎の役割表や夜勤の勤務状況等)家族等に伝えて、本人の現状を理解できるように広報していくことを推奨します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での実績や勤務状態を把握し、資格修得への機会を設けたり、資格修得者には昇給の機会がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療機関、GH協会の研修に参加したり、GH内でも勉強会を開いたり知識や技術の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加するなどして介護支援に関わる多様な支援や情報をグループワークを通じ交流を深め質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の生活や身心の状態を事前に把握し本人の意思や希望を尊重している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に具体的に要望を聞くなどしケアに取り入れている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴など把握し本人に必要とされる支援を心がけている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見極め、得意とする事・楽しいと思える作業をスタッフと共に行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙等で生活や体調の状態など家族様にお知らせしたり、行事へ参加をして頂いたり触れ合う時間や場所作りなどの支援を心掛けている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でのやりとりができており、希望があれば外出支援も行い関係の継続はできている。	センター方式を活用して、生活歴や趣味嗜好を把握し、外出への支援や馴染みの人との交流の機会を多くもてるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、トラブル発生時には職員が早急に解決できるように努め良好な関係が維持できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人様やご家族様より相談があれば対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様の意向を常に傾聴し把握に努めている。	家族や一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握をセンター方式を活用して把握に努め、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やその他関係機関からの情報提供や面会時での会話より情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の担当制で個人生活状態の把握で快適な生活を支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な支援を話し合い、また家族様の要望も考慮しながら重点とする課題や支援を決定している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人や家族の希望や要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別処遇リストの活用で統一したケアの提供に努めており、体調や心の状態など観察し介護計画の作成見直しに活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・入院対応や個々の外出のニーズに応えるよう家族様の協力も頂き対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員を招いての訓練の実施や救命の講習会にも参加して頂くなどして安心して暮らせる環境作りに努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診・受診の他、緊急時の個別対応など担当医師などの意見、も頂き適切に行っている。	通院への送迎支援、医師の往診や常勤看護師の連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておりバイタルサインのチェックや往診時の対応実施。日頃から入居者の体調や変化を相談したりと情報交換に努めている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃から病院側との情報交換を密に行い関係づくりを行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針を説明している。また状況に応じ担当医より家族様も交え話をする機会を設けている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。また、本年度ターミナルケアを2例実践している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しいつでも確認・対応できるようにしている。救急講習の定期的な開催や状態による応急処置など看護師より教わっている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し避難訓練の実施と運営推進委員を町内の方で構成しているので日頃より協力体制を築いている。	スプリンクラーや通報装置、火災報知器等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、消防署をはじめ地域の人々の協力を得て、年2回火災避難訓練を実施し、緊急時の協力体制構築に努めている。		

. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の性格や感情のあり方など把握した状況に応じた言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思っている事を気軽に話しができる環境づくりと日頃の会話より入居者様の希望を汲み取るよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースや習慣を大切に思いや意向に添う支援を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は個人の希望を聞き支援を行い清潔に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合った食器や自助具を使用し自力で摂取し食事を楽しんでもらえるよう工夫。個々の能力に応じ食材の下ごしらえや片付けなどしてもらっている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や調理、盛り付けや後片付け等をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や体調に合わせて提供方法を考慮している。個人の嗜好も取り入れながら食事や水分の提供をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合った用具を使用しケアを実施。定期的に歯科衛生士によるケアや指導、状態によってはDrの往診など行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め声掛け・誘導している。	一人ひとりの力や排泄チェックで排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、また個人で乳酸菌飲料を定期的に飲用したりしている。下剤が必要な方は医師の指示により内服・調整している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や外出・体調を考慮するのはもちろんであるが、職員も重要なコミュニケーションの場と考え支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、体調の変化を見極めながら、入浴を楽しめるよう支援している。また、脱衣場は広く、清潔感が漂っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調を考慮し状況に応じて休息が取れるよう支援している。昼夜逆転の防止の為に中は散歩やレクリアビリなど適度な運動を実施している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の把握と変更時は職員に理由説明と内服による状態の変化についても十分に留意し記録や申し送りを実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事計画の起案・実施と生活歴やADLに応じた軽作業の役割分担で職員の見守りや支援にて実施する事で充足感を得てもらう。気候の良い日は散歩などで外出する機会を多くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に応じ買い物や散歩・外食に出掛ける支援を行っている。家族様や友人の誘いでドライブや映画鑑賞などにも行かれている。	一人ひとりのその日の希望にそって、ショッピングセンターでの買い物やドライブ、紅葉や男山酒造見学、回転寿しやショッピングモールでの外食等戸外に多く出掛けられよう支援している。また、七夕祭りへの参加で地元の人々との交流や近隣幼稚園児の学芸発表の訪問等で子どもたちとの交流にも取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の金銭・通帳は本人様の了解を得て家族様やホームでの管理をしている。買い物や食事など外出時に手渡し使用してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の設置や手紙を出す支援は行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により快適に過ごせるよう毎日の清掃や適度な換気を実施。季節の花を育てるなどして楽しんで頂いている。	玄関や廊下、職員の休憩室は広く、ゆったりとして、共用の空間では季節毎の行事の写真の掲示や作品が飾られていると共にひとりになったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され居心地良く過ごせるよう工夫している。また、毎日の清掃・消毒換気を行い、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所でも自分の場所は必然的にできており、そこは自分の場所として確立できている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や小物を継続して使用やライフスタイルに応じ家具の購入や設置の工夫などで自分の部屋として過ごして頂いている。	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が掲示されて、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて表示を付けたり、見守り・支援での適確な声掛けで、できる事は自分で行えるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホームあらた(ユニット2階)		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成24年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を企画したり、ホームの庭に季節の花や野菜の苗を植えて成長や収穫の喜びを感じるなど、出来る限り外の空気に触れ、季節感を感じて頂ける支援を意識している。また自分達で出来る事は職員の見守りを受けながら一緒に行く等、入居者一人ひとりのQOLやADLを維持・向上できるよう支援に努め、何気ない日常の行動が本人の自信へつながり、生活する上で充実・達成・満足を感じて頂けるような支援を行っている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901761&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年8月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と尊厳のある生活」を理念に掲げ、地域の方々との交流・連携を通し、開かれた施設づくりに努めている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩時は近隣者へ積極的に声掛け、消火訓練や行事への参加を呼び掛ける等日頃から近隣の方々とのつながりを大切にしている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や行事への招待、資源回収への協力など日頃より地域の方々と触れ合う時間を作っている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の役員や民生委員、また協力医療機関の方々と定期的に運営推進会議を開催し、運営状況の報告や意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、日常的に連絡・報告・相談等を行い、指導・助言を頂くなど関係を築いている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止となる具体的行為」を掲示し、理解を深め、見守りの徹底をし、拘束をしないケアを実践している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内で虐待について話し合い、虐待のない支援を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士より権利擁護に関する指導を受け、状況に応じたアドバイスを受けている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様・ご家族様共にホームの見学時や事前面談時に運営事項や入居に関する説明を行い、理解・納得を頂いている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の掲示や1F玄関に意見箱を設置し、日頃面会時には積極的に声掛けを行うよう心掛けている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングや普段の業務内で話し合いや提案、意見交換を行い、運営に反映している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での実績や勤務状況を見て職員の声を聞き、研修会への参加や資格修得者への昇給の機会がある		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力医療機関や調剤薬局の協力を仰ぎ、勉強会を行い、職員の資質向上に努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会へ参加し、情報交換や交流等を通じ、支援内容の質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を基に、ご本人様の状況やご希望を把握し、一人ひとりに合わせた環境作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の希望に耳を傾け、密に連絡を行いながら、安心してお任せしてもらえるような関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を基に、必要としている支援を見極め、適切なサービスの導入など丁寧な説明を心掛けている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の体調や精神面を理解しながら、お互いに向上していけるような関係を築くように努力している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ毎月写真付きのお手紙で様子を報告し、連絡を密にする事で、入居者様と一緒に支援していく関係を築いている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会を広く受け入れている。時々ご本人様が飼っていたペットを連れて面会に来られるご家族もいる		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や性格を考慮し、行事やレクリエーションを行い、交流を深められるよう支援している。またトラブルの早期発見・対応により、和を保てるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への訪問等行い、ご本人様・ご家族様より相談・連絡があった時は対応している。退居後もホームへ遊びに来られるような環境作りを心掛けている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制により、ご本人様の希望や意向を細かく把握し、カンファレンス内で検討し、出来るだけ希望に添えるよう改善している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを活用し、個々の生活歴や馴染みの環境・出来事を把握したり、情報の共有を図り、日々の支援に活かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく状況を記録したり、定期的なカンファレンスを実施し、より良い方向を見出すべく検討を重ねている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に必要な支援を話し合い、ご家族様の要望を把握し検討を重ね、現状に合わせた課題や支援内容をケアプランに反映している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日報・個人記録・連絡ノートを活用し、毎日の様子やケア内容の改善・工夫等の情報を共有しながら、日々の支援につなげている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容や個々の外出支援の他、カイロプラティック施術や口腔衛生指導等、出来る限りのニーズに対応する努力をしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員を招いた講習会、薬剤師による薬の勉強会など開催し、町内役員や民生委員の方々と情報交換を行い、地域で安心して暮らせる環境づくりを行っている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診してきた病院との関係を大切に、ご本人様の希望に合わせた受診・往診の調整をしたり、緊急時の個別対応などの指示を頂き、適切な医療を心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と情報を共有する事で入居者様への適切な対応ができ、医学的な助言を得られる事からきめ細やかな支援を心掛けている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会をし、安心して治療できるよう生活面の支援と病院関係者やご家族様と密な連絡を交わし、ご家族様の意向を汲み取り、早期退院に向け取り組んでいる		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた当ホームの方針をご家族様へ説明し、状況に応じて担当医よりご家族様と職員を交えて話をする機会を設けている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目の届く所に設置したり、年1回の救急講習の実施などの備えを実施している。応急処置についても日頃看護師の指導や助言を受けている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内役員が運営推進委員でもあり、定期的に避難訓練、消火訓練と共に行い、職員の防災意識の向上や災害対策を身につけている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で話し合い、入居者様のプライバシーに配慮、人格を尊重した支援を行っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においてふとした言葉や仕草を汲み取り、思いや希望を自己決定できるように配慮している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重、その日の体調や希望に副った支援を実施している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご本人様の希望を取り入れ、その日の天候・季節にあった服装に配慮・助言する等の支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みやできる事を把握し、混ぜる・切る作業やおしぼり準備やお皿拭きなど一緒に行っている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患や身体状況、嚥下力など把握し食べやすく飲みやすい形態でバランスの良い食事・水分摂取を心掛けている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで清潔を保てる支援を行い、訪問歯科と連携し、口腔ケアの技術向上に努めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄、自力での排泄の継続支援を心掛けている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、医師や看護師へ相談し指示を受けながら下剤の調整をしている。水分や乳製品の摂取の他、腹部マッサージを促している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や外出を考慮し、本人の体調を伺いながら支援している。また、コミュニケーションの場としても重要な場として捉え、くつろぎながら入浴を楽しめるような支援を心掛けている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休んでもらえるよう週1回寝具類の交換、毎日の環境整備をしている。アロマオイルを設置し、気持ち安らげる支援をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を理解し、服薬変更による症状の観察に務めている。薬剤師による「薬」の勉強会を実施し、薬に対する知識を深め、服薬支援にあたっている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や出来る事や好む事を活かし、張り合いや気分転換、楽しみの持てる行事を取り入れ、充実した毎日が過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の希望を取り入れながら外出行事を企画し、個々の外出希望にはご家族様の協力や職員が付き添い支援している</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の金銭はご本人様ので了承を得てご家族様やホームで管理している。小額を自己管理し買物時支払いしている方もいる</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>居室で電話利用している方は職員の支援を受けながら利用されたり、親戚へお手紙を自筆で書き上げ、交流図れるよう支援している</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>気持ち良く過ごせるよう毎日の清掃・消毒・換気を行い、ホーム内壁には入居者様と共に作成した季節感ある作品や行事の写真を掲示し、心地良い空間づくりを心掛けている</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファーでくつろいだり、エレベーター前の花の観賞や水遣り、テーブルを囲んでの談笑など思い思いに過ごしてもらえるような空間作りをしている</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や小物など継続使用を出来る限り勤めており、落ち着いて過ごせるよう配慮している</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室やトイレ・浴室などわかりやすく表示したり、ホーム内バリアフリーで安全・自立を心掛けた環境づくりを行っている</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あらた

作成日: 平成 24年 8月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6・38	業務に追われ、入居者様の行動の見守りが不十分となり、自力での立ち上がりや移行ヒヤリハットが増加	入居者様・職員共に穏やかに過ごせる時間を増やし、大きな事故につながらないよう、観察力・洞察力を養いたい	職員間での決め事を実践し、見守りの時間や入居者様との関わりを増やす事でヒヤリハットの減少を目指す	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。